

# 立川市の交通事故の現状について

立 川 市

## 目 次

1	交通事故の概況	1
1. 1	人口の推移	1
1. 2	自動車保有台数の推移	2
1. 3	自動車運転免許保有者数の推移	2
1. 4	交通事故発生件数	3
1. 5	事故類型別発生件数・構成比	4
2	当事者別事故発生状況	6
2. 1	当事者別事故件数・死傷者数	6
2. 2	自動車の交通事故	9
2. 3	二輪車の交通事故	9
2. 4	自転車の交通事故	10
2. 5	歩行者の交通事故	11
3	年齢層別死傷者数	12
3. 1	年齢層別死傷者数	12
3. 2	子ども（中学生以下）の交通事故	13
4	年齢層別状態別の事故発生状況	14
5	町別事故発生件数	16
6	路線別事故発生件数・構成比	17
7	道路形状別・信号有無別発生件数	18

## 1 交通事故の概況

### 1. 1 人口の推移

- ・立川市の人口\*1は、平成27年に対し令和2年には1.028倍に増加
- ・今後の立川市の人口\*2は、令和7年をピークに減少と予測
- ・今後の立川市の65歳以上の人口の割合は、増加傾向と予測

立川市の人口は、平成27年の179,090人に対し、令和2年には184,090人に増加（1.028倍）しています。

今後の立川市の人口は、令和7年の184,839人（1.004倍）をピークに減少していくことが予測されています。

今後の立川市の人口を年齢層別にみると、全年齢層のうち65歳以上の人口の割合は、令和2年の24.5%に対し、令和7年には24.9%となり、増加傾向となることが予測されています。

---

\*1 住民基本台帳（各年1月1日現在）による。

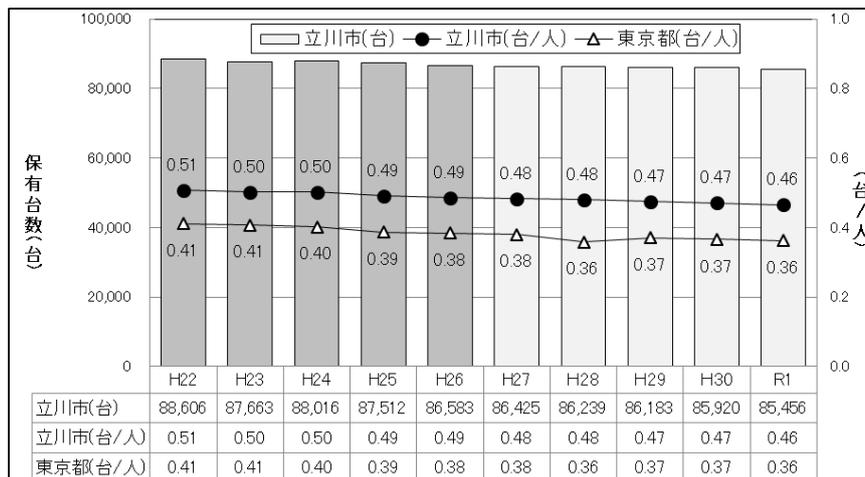
\*2 出典：立川市「第4次長期総合計画後期基本計画策定のための将来人口推計調査」

## 1. 2 自動車保有台数の推移

・自動車保有台数は、平成24年以降、減少傾向にある

立川市の自動車保有台数は、令和元年が85,456台であり、平成24年の88,016台以降、毎年減少しています。（平成24年に対して2,560台、2.9%の減少）

立川市の人口一人当たりの保有台数は、平成24年の0.50（台/人）に対し、令和元年は0.46（台/人）となっています。



※立川市統計年報の登録自動車台数に軽自動車等の課税台数を加算

（資料：立川市統計年報、各年3月31日現在）

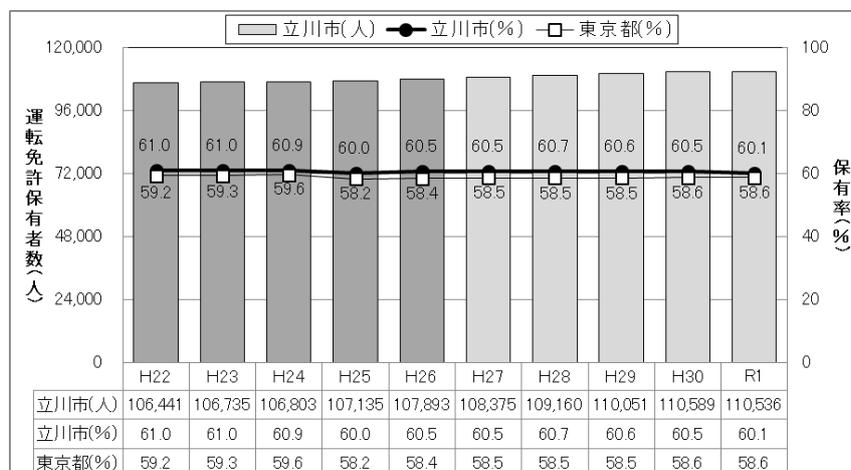
図 1.1 自動車保有台数（立川市）

## 1. 3 自動車運転免許保有者数の推移

・自動車運転免許保有者数は、増加傾向にある

立川市の自動車運転免許保有者は、令和元年が110,536人で、増加傾向にあります。

立川市の人口に占める保有者の割合は、60.1%（およそ1.6人に1人保有）で減少傾向ではありますが、東京都の58.6%よりは高くなっています。



（資料：警視庁交通年鑑、各年末）

図 1.2 自動車運転免許保有者数（立川市）

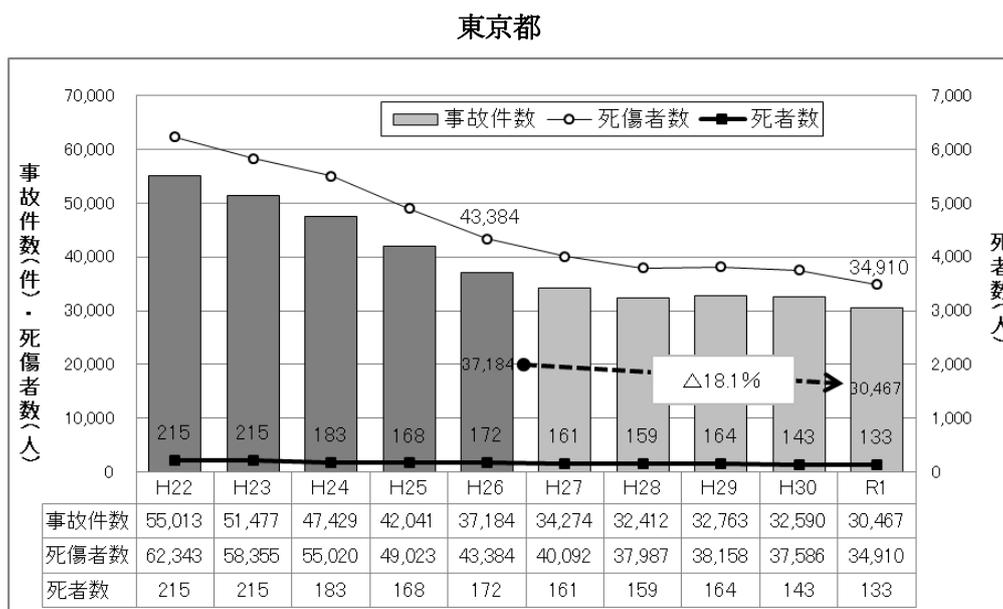
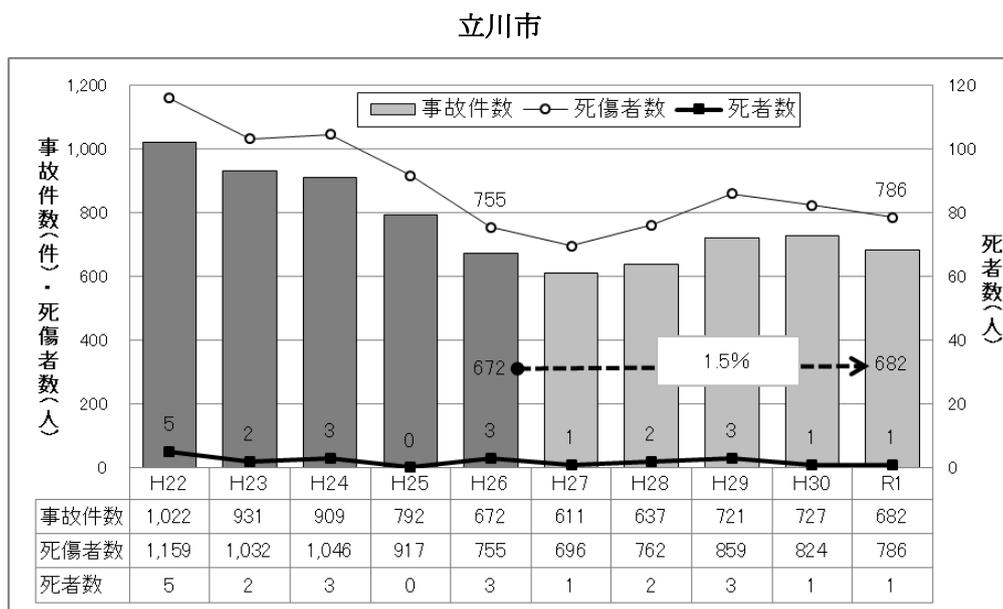
## 1. 4 交通事故発生件数

- ・交通事故発生件数は、平成28年以降増加し、令和元年は減少
- ・平成26年以降の死者数は、1～3人の間で推移

立川市における交通事故発生件数は、平成27年までは減少傾向にあったものの、平成28年以降は増加し、令和元年は再び減少しています。

東京都では令和元年と平成26年を比較すると、事故発生件数が18.1%減少しているのに対して、立川市ではわずかに増加しています（1.5%増加）。

なお、立川市の交通事故による死者数は平成26年以降、1～3人の間で推移している状況です。



（資料：警視庁 東京の交通事故）

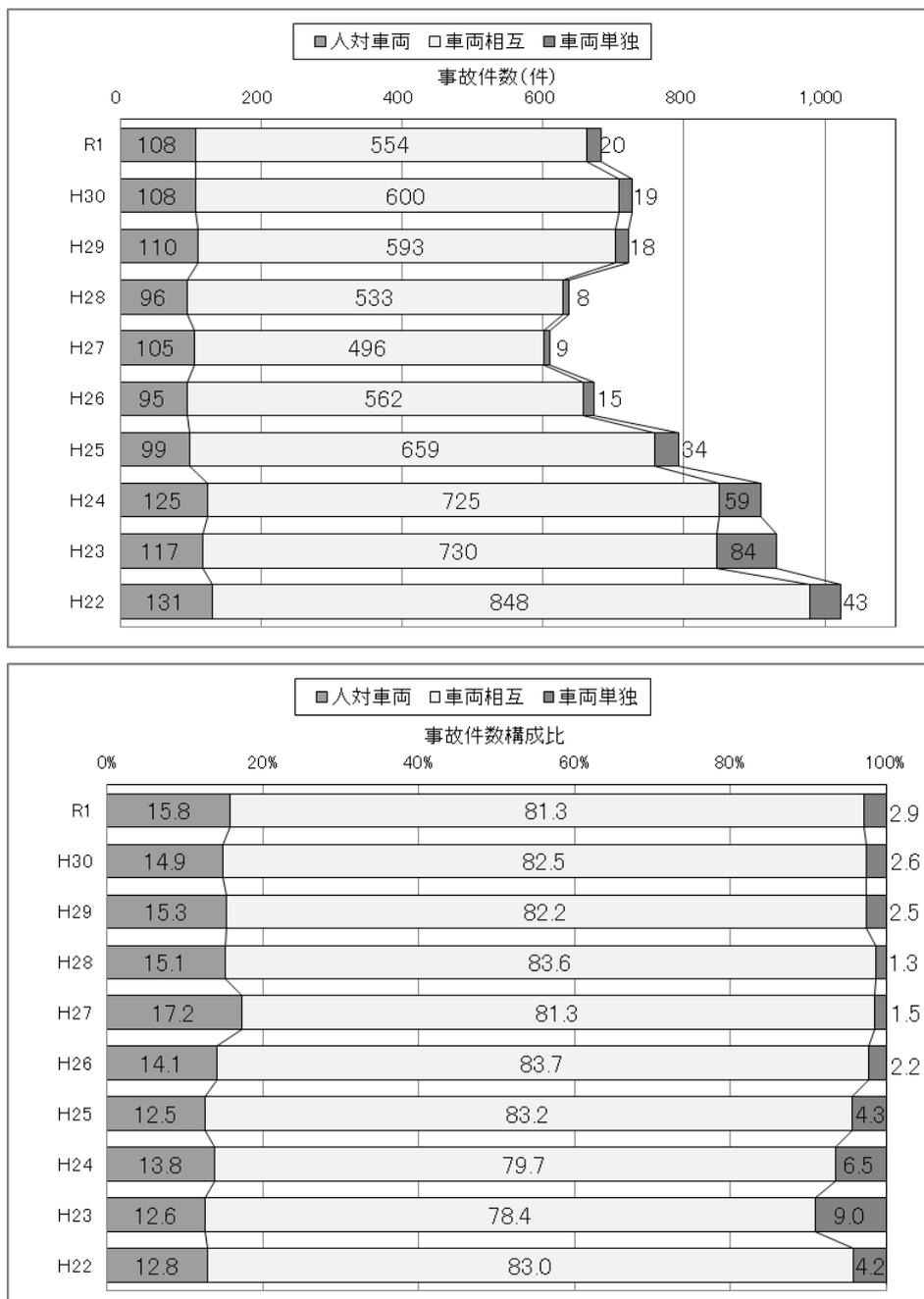
図 1.3 交通事故発生件数（立川市・東京都）

## 1. 5 事故類型別発生件数・構成比

- ・事故類型別発生件数は、各事故形態ともに平成28年から増加傾向
- ・事故類型別構成比は、人対車両が増加

立川市の事故類型別発生件数は、人対車両・車両相互・車両単独ともに減少傾向でしたが、平成28年以降は増加に転じ、令和元年は車両相互のみ再び減少しています。

事故類型別構成比は、平成26年と令和元年を比べると、人対車両の事故件数が増加したことにより（平成26年：95件、令和元年：108件）、人対車両の占める割合も増加しています。



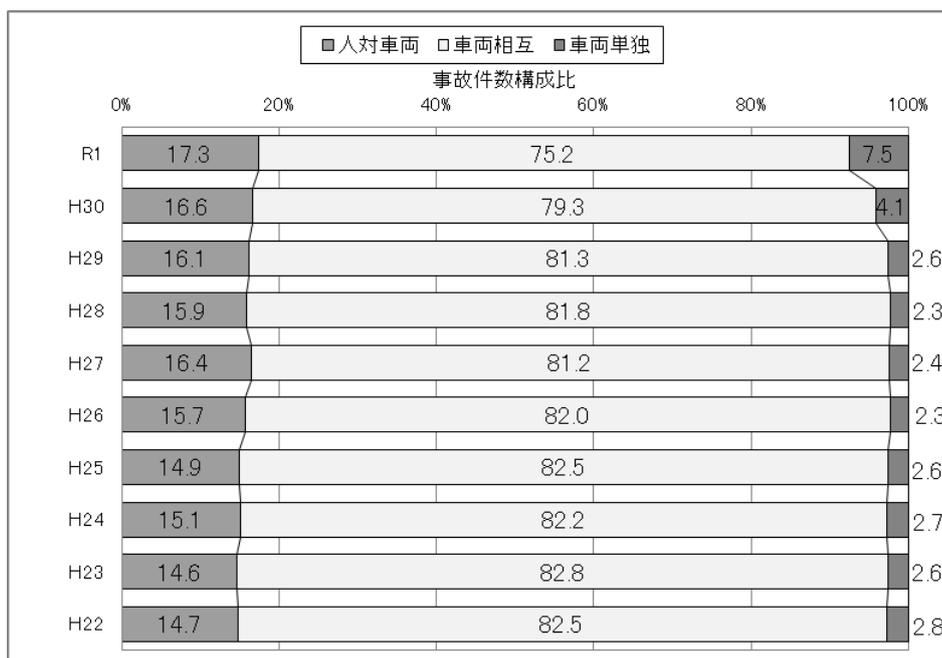
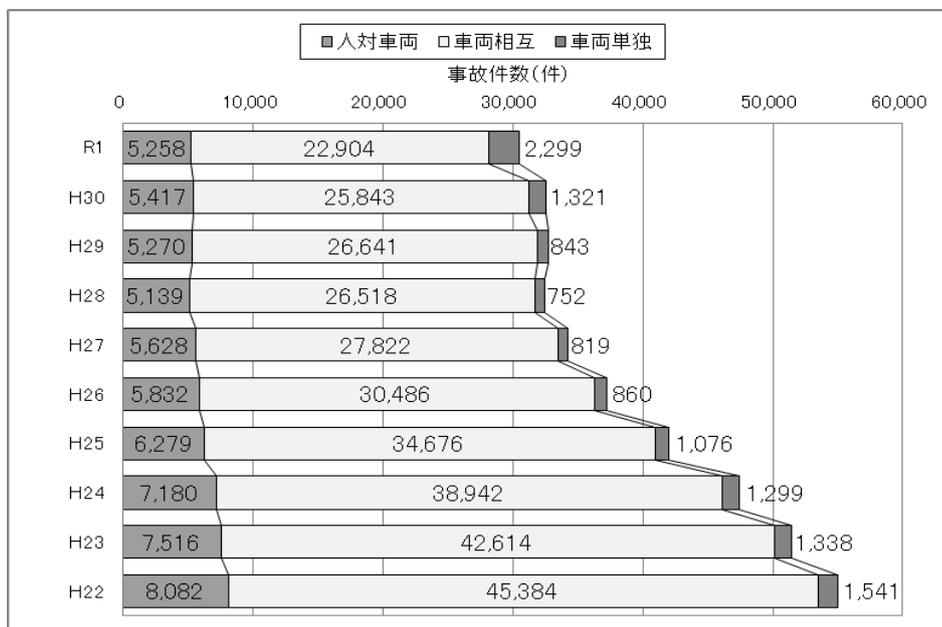
※列車事故は含まず。

(資料：警視庁 東京の交通事故)

図 1.4 事故類型別発生件数・構成比 (立川市)

東京都の事故類型別発生件数は、車両相互は減少傾向ですが、車両単独は平成28年以降増加傾向、人対車両は年によって増減しています。

事故類型別構成比は、車両単独の占める割合が近年増加しており、人対車両の占める割合もやや増加しています。



※列車事故は含まず。

(資料：警視庁 東京の交通事故)

図 1.5 事故類型別発生件数・構成比 (東京都)

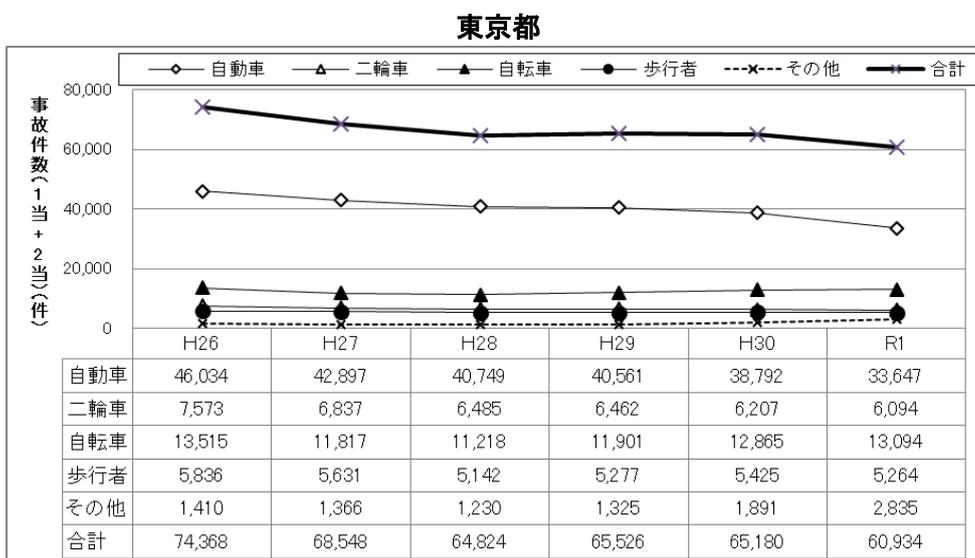
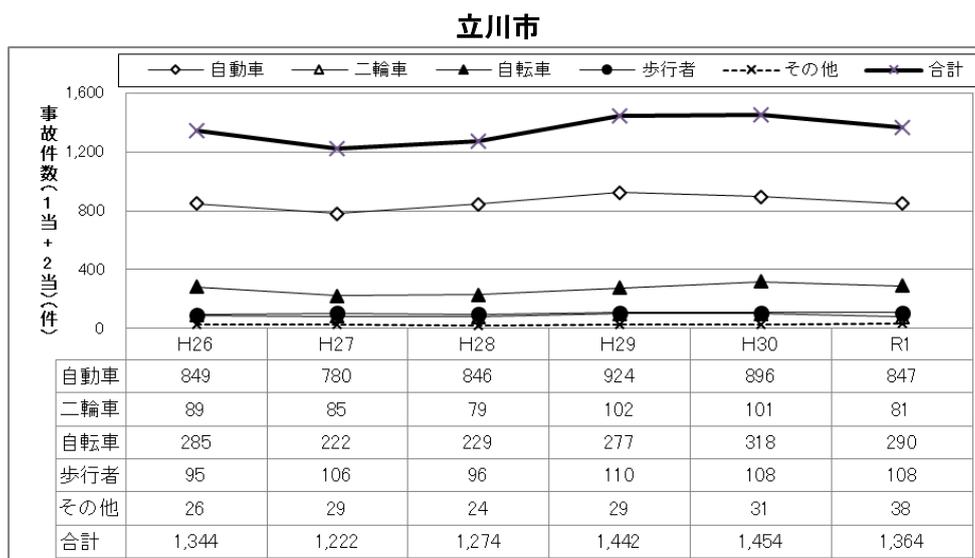
## 2 当事者別事故発生状況

### 2. 1 当事者別事故件数・死傷者数

- ・自動車・自転車で、事故件数が多い
- ・立川市は東京都と比べると、自動車と自転車事故の割合が高い

立川市の当事者別事故件数をみると、第1当事者（1当）\*1と第2当事者（2当）\*1の合計事故件数は、自動車でも多く、次いで自転車が多くなっております。

自動車・二輪車・自転車は近年減少していますが、歩行者は横ばいとなっております。



※その他には、その他車両（路面電車、列車、自転車以外の軽車両）、対象外当事者、対象外物件を含む。

（資料：警視庁 東京の交通事故）

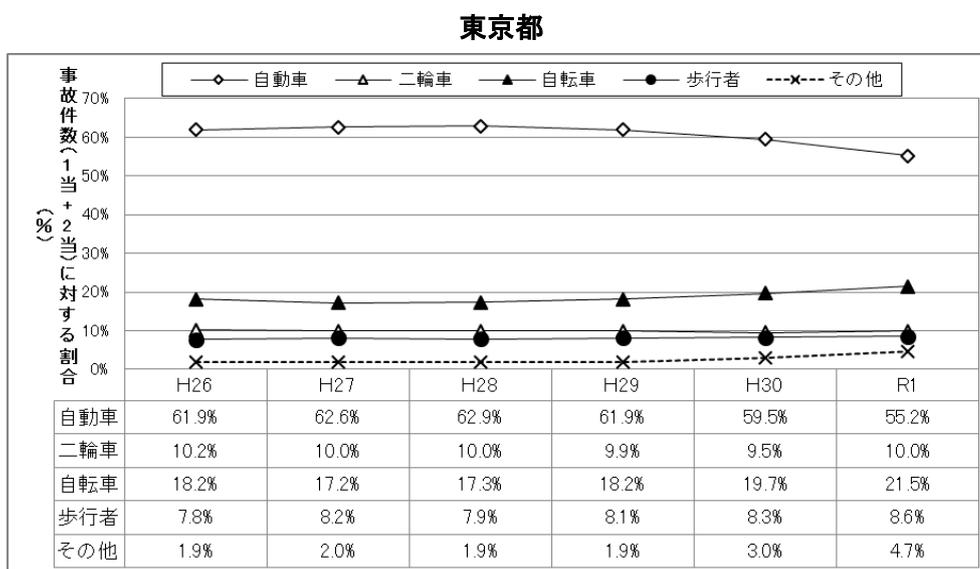
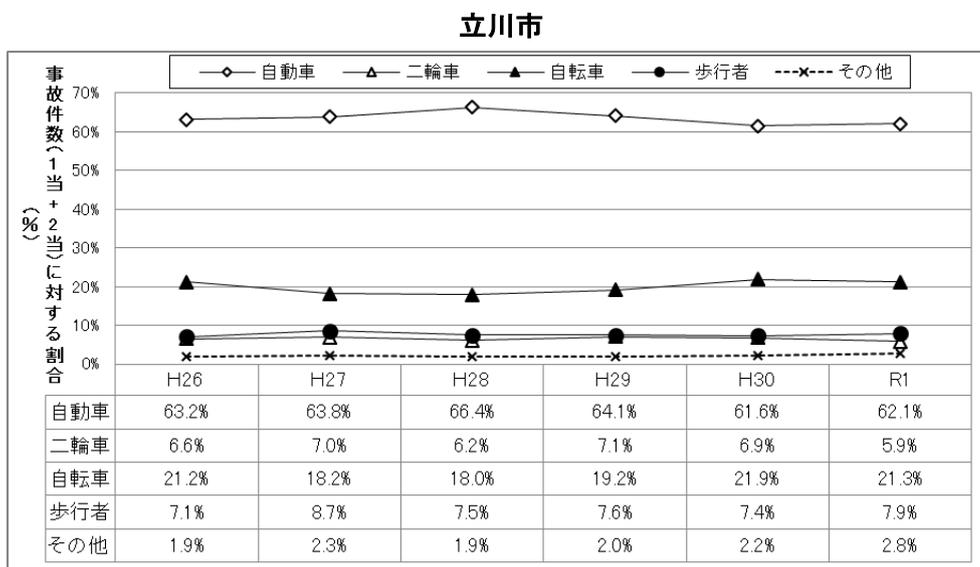
図 2. 1 当事者別事故件数（立川市・東京都）

\* 1

- ・第1当事者（1当）：過失（違反）がより重いか又は過失（違反）が同程度の場合は、被害がより小さい方の当事者をいう。
- ・第2当事者（2当）：過失（違反）がより軽いか又は過失（違反）が同程度の場合は、被害がより大きい方の当事者をいう。

当事者別事故割合\*<sup>2</sup>をみると、立川市の自動車事故の割合は平成 26 年から令和元年まで全ての年において東京都より高くなっております。(令和元年：立川市 (62.1%)、東京都 (55.2%) )

また、立川市の自転車事故の割合も、令和元年を除き東京都より高くなっております。(平成 30 年：立川市 (21.9%)、東京都 (19.7%)。)



(資料：警視庁 東京の交通事故)

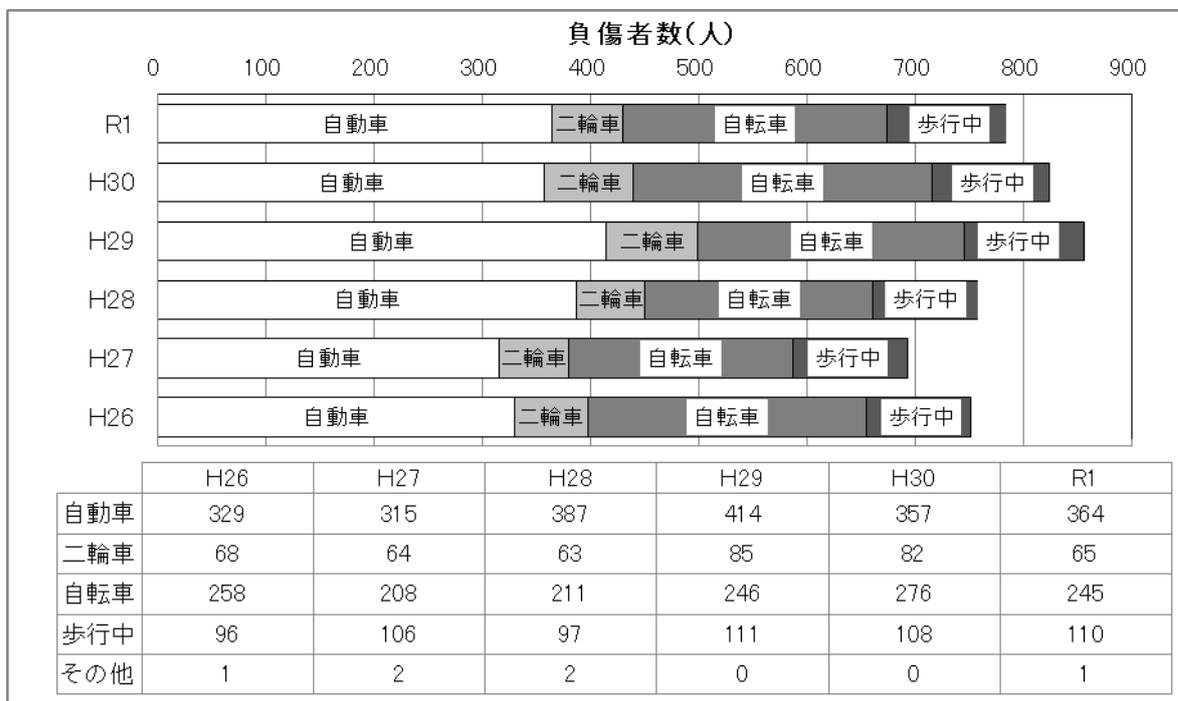
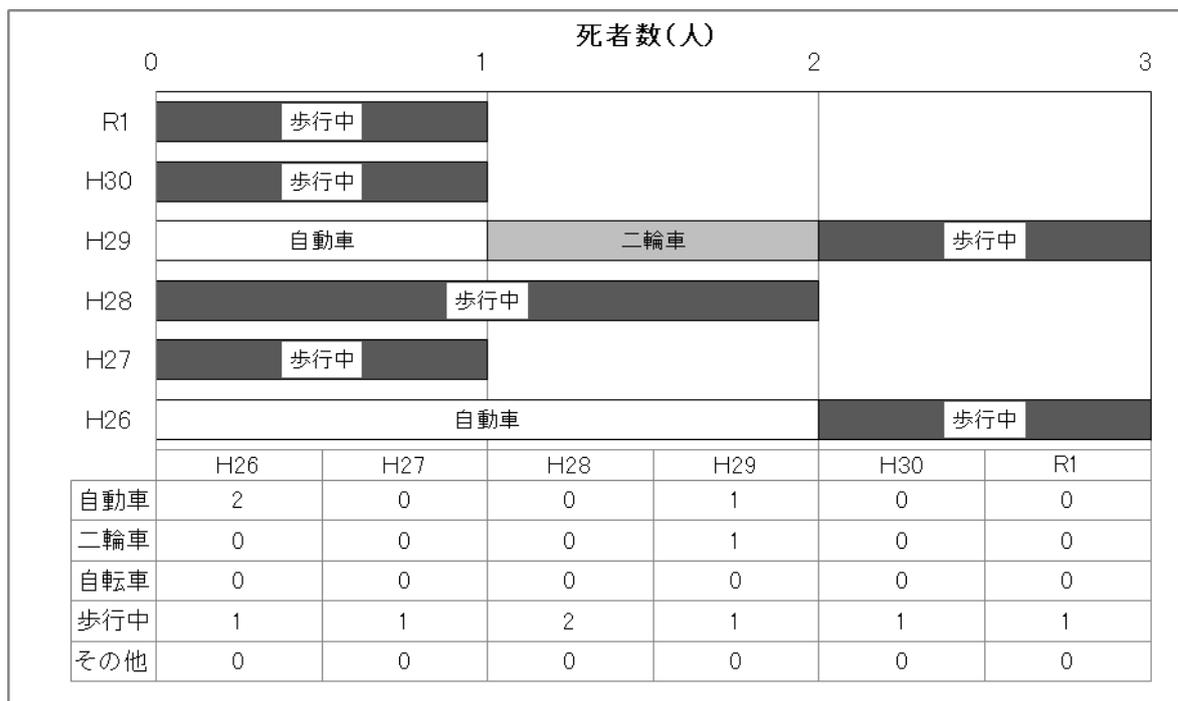
図 2.2 当事者別事故割合 (立川市・東京都)

\* 2 当事者別事故割合：第 1 当事者が「自動車」である事故件数又は第 2 当事者が「自動車」である事故件数の合計件数を、第 1 当事者及び第 2 当事者の事故件数の合計で割ったもの。

自動車が事故件数に占める割合 (立川市・令和元年) は、「自動車事故件数 847 件 / 事故件数 1364 件 = 62.1%」となる。

状態別死傷者数をみると、平成26年からの累計死者数は歩行中の事故で7名、自動車の事故で3名、二輪車で1名となっています。

令和元年の負傷者数は、平成26年に比べて自動車、歩行中での事故が増加しています。



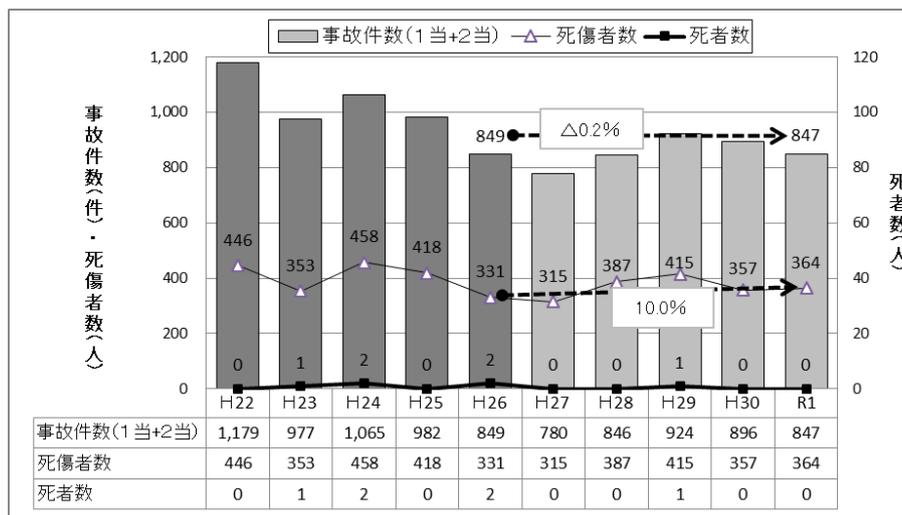
(資料：警視庁 東京の交通事故)

図 2.3 状態別死傷者数 (立川市)

## 2. 2 自動車の交通事故

- ・自動車事故件数は、平成26年と令和元年で同程度
- ・死傷者数は、平成26年に比べて令和元年は増加

令和元年の立川市における自動車の事故件数は847件となっており、平成26年の849件と同程度ですが、死傷者数は平成26年に比べて10.0%増加しています。(33名増加)  
 なお、当事者別事故件数で自動車事故は最多となっています。(図2.1参照)



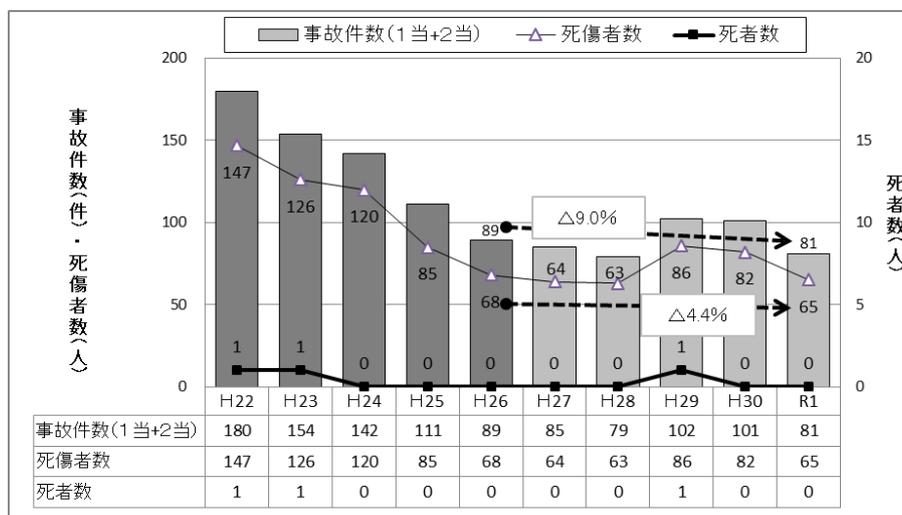
(資料：警視庁 東京の交通事故)

図 2. 4 自動車事故件数と死傷者数 (立川市)

## 2. 3 二輪車の交通事故

- ・二輪車事故件数は、平成26年に対し令和元年は9.0%減少
- ・死傷者数も平成26年に対し令和元年は減少

立川市における二輪車(自動二輪車と原動機付自転車)の事故件数は、平成26年の89件に対して令和元年は81件(9.0%減少)、死傷者数も平成26年に比べて減少しています。



(資料：警視庁 東京の交通事故)

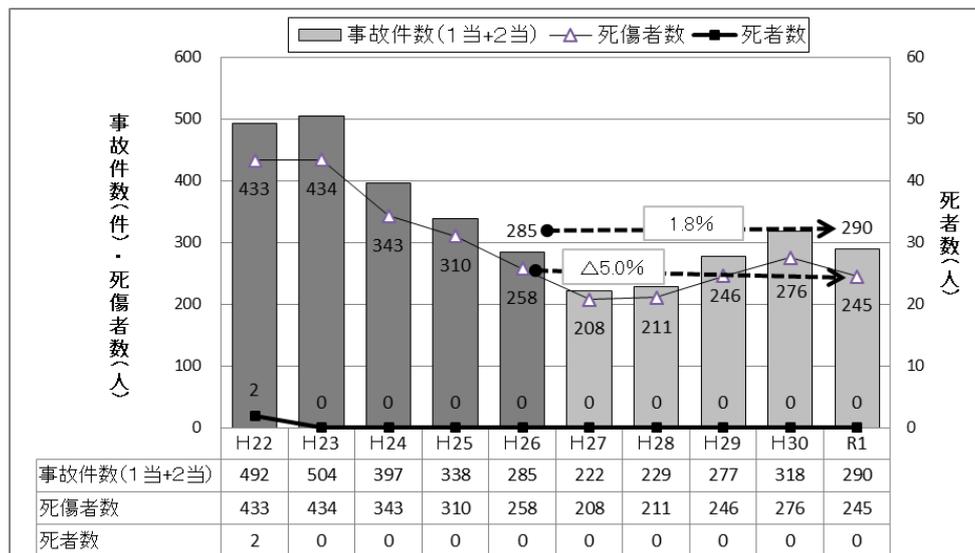
図 2. 5 二輪車事故件数と死傷者数 (立川市)

## 2. 4 自転車の交通事故

・自転車事故件数・死傷者数は、平成28年以降増加し、令和元年には減少

立川市における自転車の事故件数は、平成23年をピークに減少していましたが、平成28年以降は増加に転じ、死傷者数も増加しました。

令和元年は事故件数・死傷者数ともに減少しています。

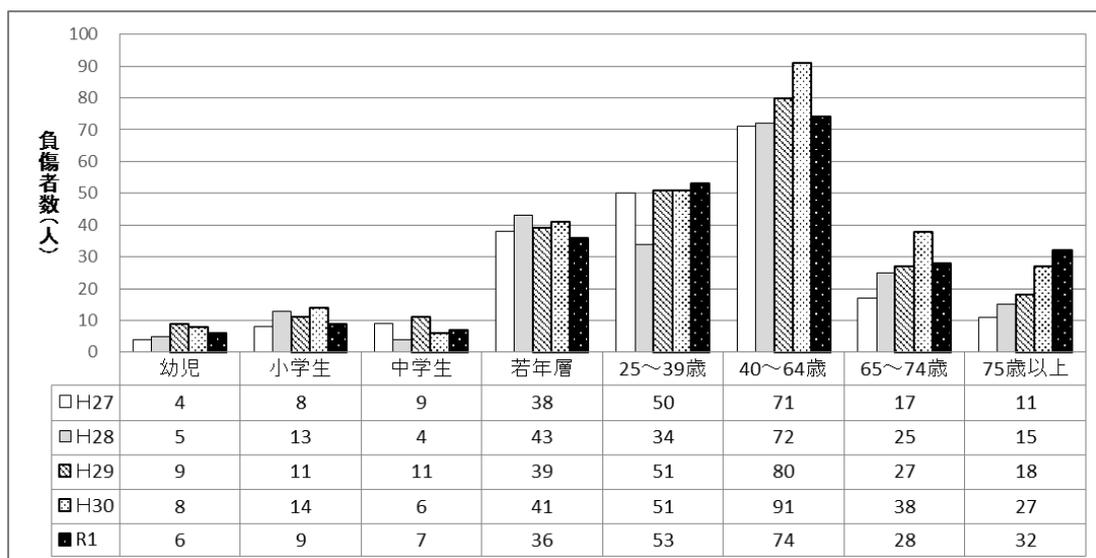


(資料：警視庁 東京の交通事故)

図 2. 6 自転車事故件数と死傷者数 (立川市)

平成27年以降の自転車事故の年齢層別負傷者数をみると、40～64歳が最も多く、次いで25～39歳が多くなっております。

65歳以上の年齢層では、他の年齢層に比べて負傷者数の増加傾向がみられ、特に75歳以上では顕著に表れています。



※若年層：中卒（中学校卒業後）から25歳未満までの年齢層。

(資料：警視庁 東京の交通事故)

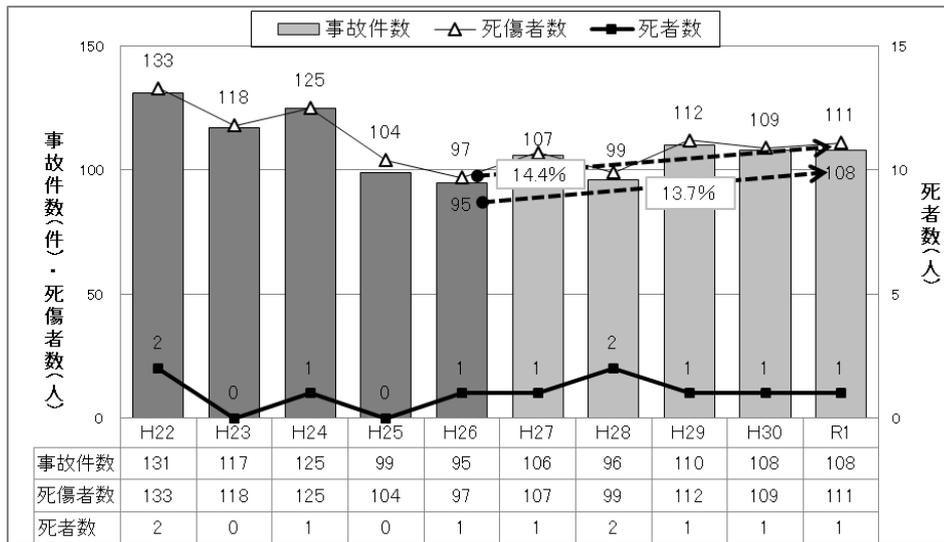
図 2. 7 自転車事故の年齢層別負傷者数 (立川市)

## 2. 5 歩行者の交通事故

- ・歩行者事故件数・死傷者数は、平成26年に対し令和元年は14%程度増加
- ・平成26年以降、毎年歩行者が亡くなっている

立川市における歩行者の事故件数は、平成26年の95件に対して令和元年は108件と、13.7%増加し、死傷者数も平成26年比べて増加しています。

また、平成26年以降、毎年1人または2人の方が歩行中に亡くなっています。

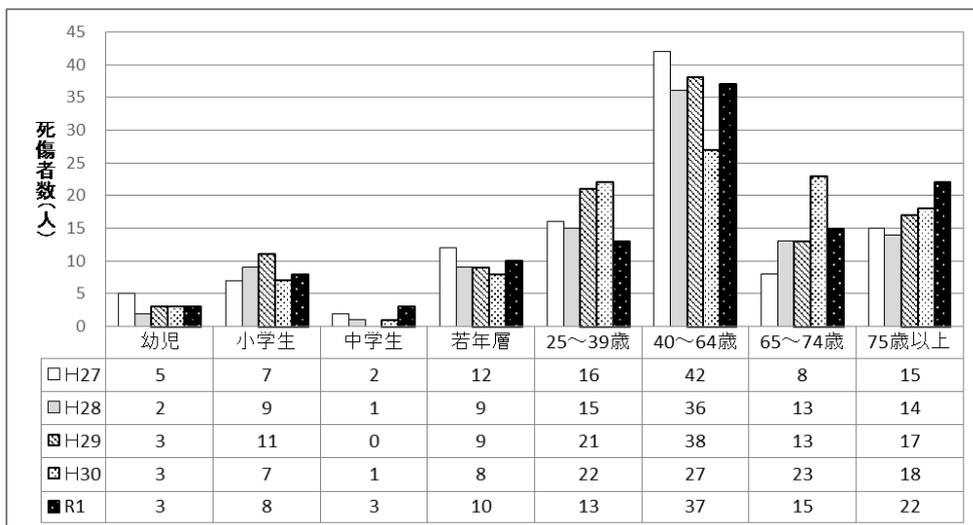


(資料：警視庁 東京の交通事故)

図 2. 8 歩行者事故件数と死傷者数 (立川市)

平成27年以降の歩行者事故の年齢層別死傷者数をみると、40～64歳が最も多くなっております。

65歳以上の年齢層では、他の年齢層に比べて死傷者数の増加傾向がみられ、特に75歳以上では顕著に表れています。



※若年層：中卒（中学校卒業後）から25歳未満までの年齢層。

(資料：警視庁 東京の交通事故)

図 2. 9 歩行者事故の年齢層別死傷者数 (立川市)

### 3 年齢層別死傷者数

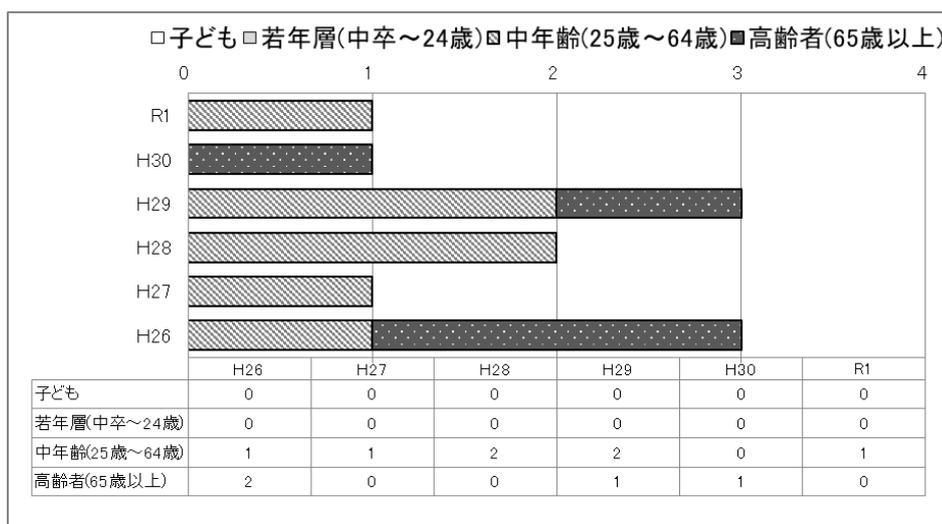
#### 3. 1 年齢層別死傷者数

- ・平成 26 年以降の死者は、中年齢（25 歳～64 歳）および高齢者
- ・中年齢（25 歳～64 歳）に負傷者が多く発生

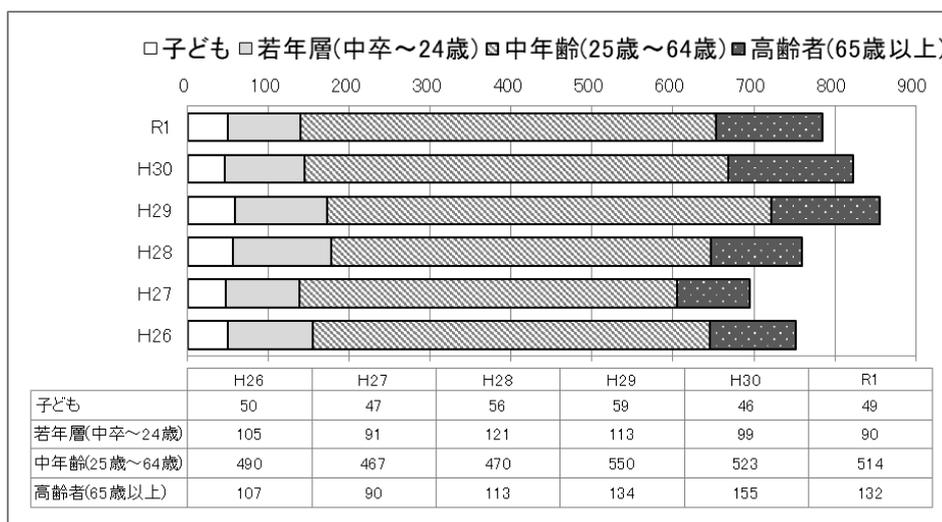
立川市の年齢層別交通事故死者数をみると、中年齢（25歳～64歳）および高齢者の年齢層で死者が出ています。

負傷者数をみると、中年齢に負傷者が多く出ています。

死者数（人）



負傷者数（人）



（資料：警視庁 東京の交通事故）

図 3. 1 年齢層別死者数、負傷者数（立川市）

\* 1 年齢層別の用語の意味は次のとおり。

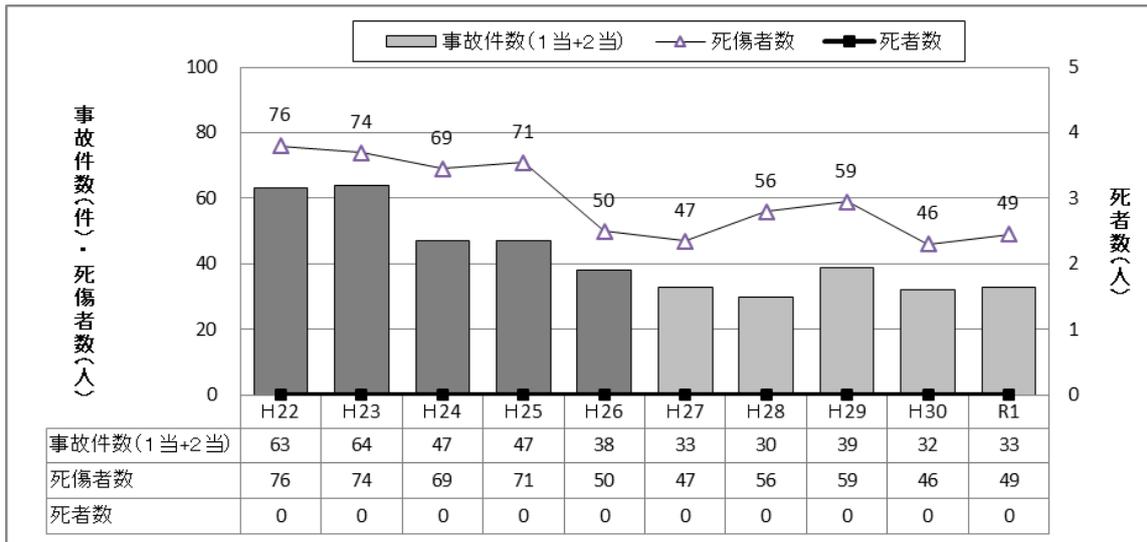
- ・子どもの事故：幼児、小学生、中学生が関与した交通事故をいう。
- ・若年層の事故：中卒（中学校卒業後）から25歳未満までの年齢層の人が関与した交通事故をいう。

### 3. 2 子ども（中学生以下）の交通事故

- ・子どもの関わる事故件数は、平成22年以降減少傾向
- ・死者数は0人、負傷者数は平成26年以降46人から59人の中で推移

子どもの関わる事故件数は、平成22年以降減少傾向にあり、平成26年以降は毎年40件を下回っております。

死傷者数については、平成22年以降死者は出ておらず、平成26年以降負傷者数は46人から59人の中で推移しております。



(資料：警視庁 東京の交通事故)

図 3. 2 子ども（中学生以下）の事故件数（立川市）

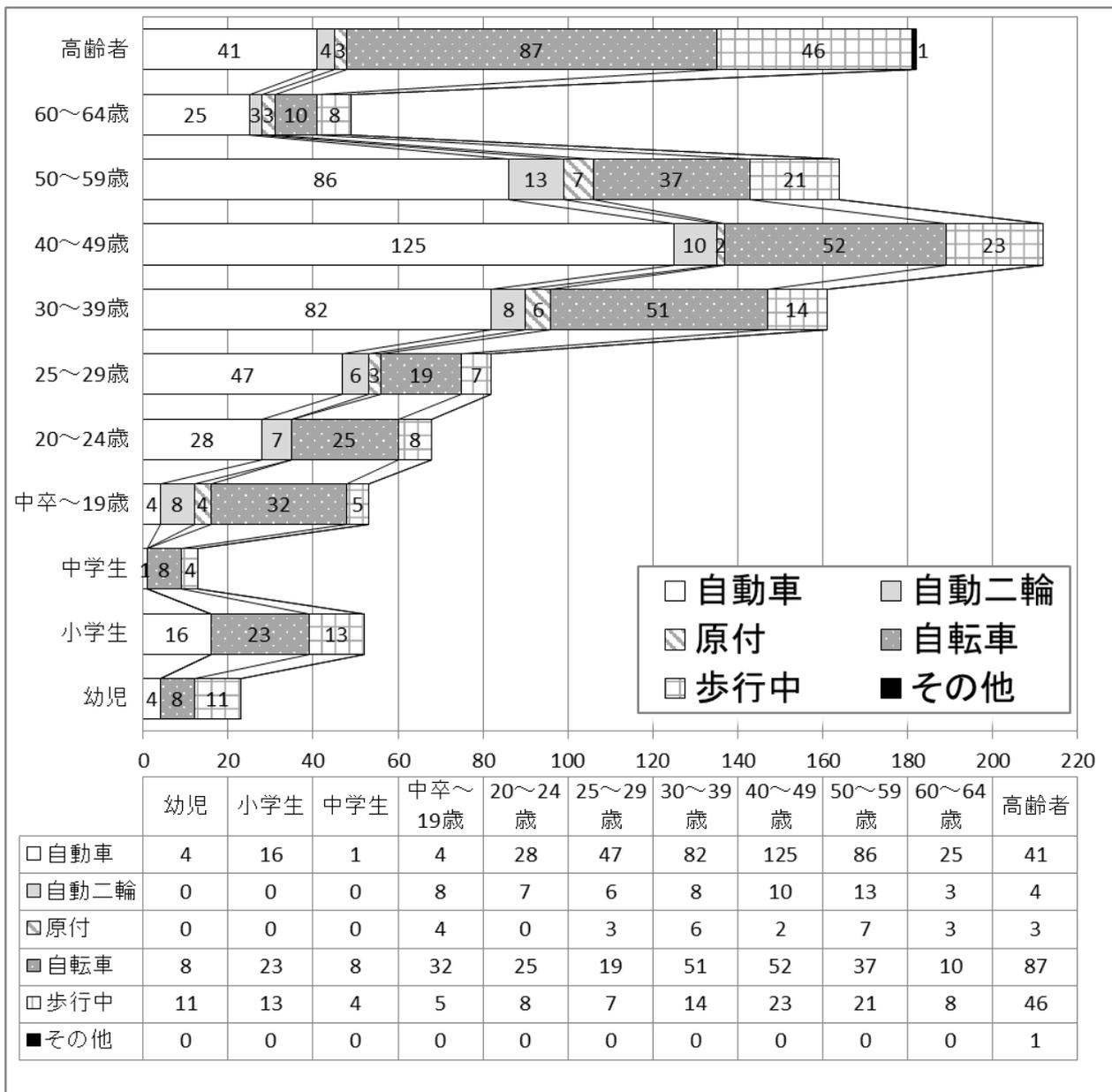
#### 4 年齢層別状態別の事故発生状況

・年齢層別の死傷者数は、40代、高齢者、50代、30代の順に多い

令和元年の立川市における事故当事者の年齢層別状態別の死傷者数をみると、死傷者数の最も多い年齢層は40～49歳、次に高齢者（65歳以上）となっています。

死傷者数が最も多い状態は、40～49歳の自動車で125人、次に高齢者の自転車で87人、50～59歳の自動車で86人となっています。

高齢者（65歳以上）の事故は、自転車事故が87人、歩行中の事故が46人の順で多くなっています。



※その他には、その他車両（路面電車、列車、自転車以外の軽車両）、対象外当事者、対象外物件を含む。  
 ※中卒～19歳：中卒（中学校卒業後）から19歳まで。

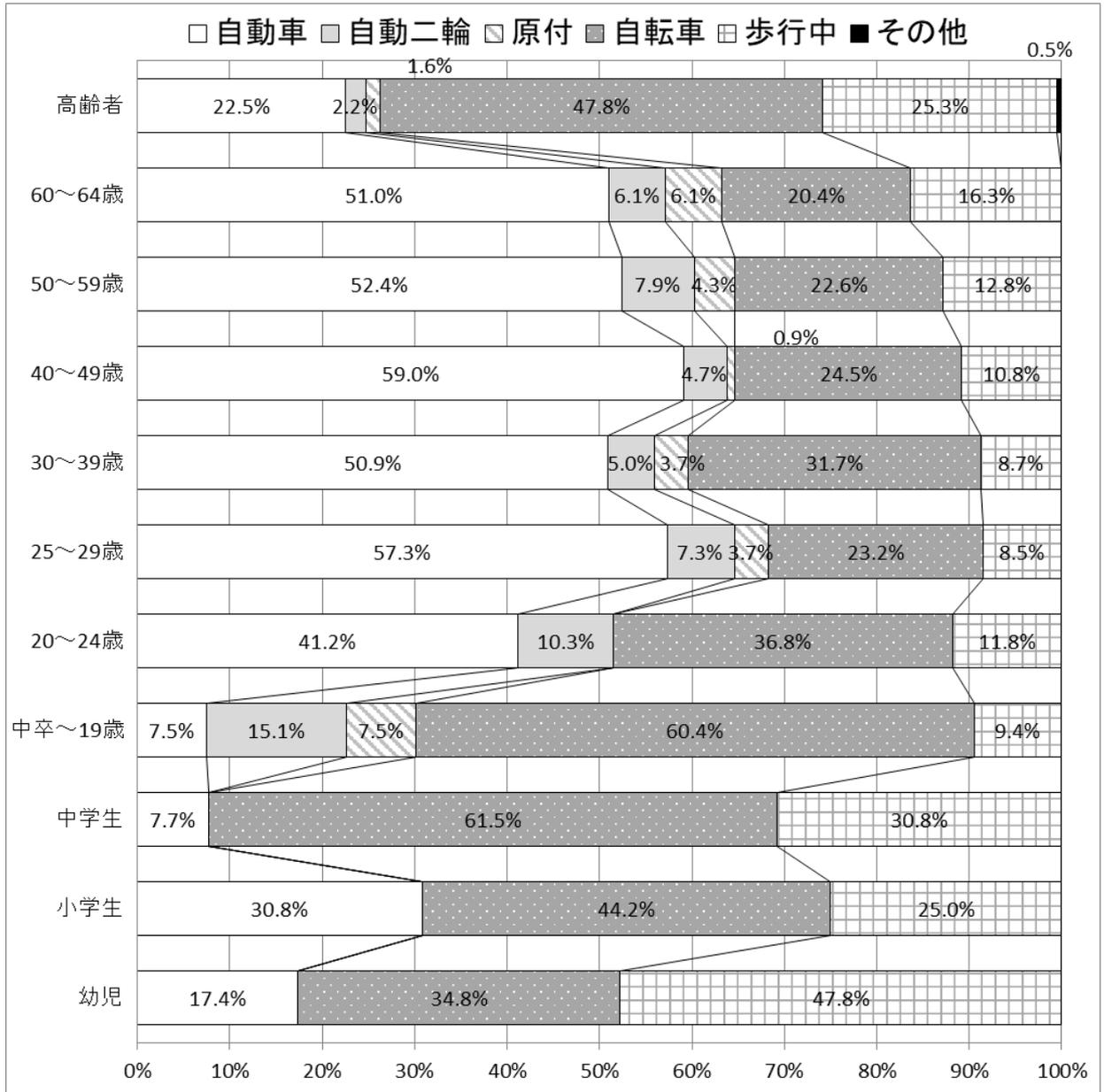
（立川警察署よりデータ提供）

図 4. 1 年齢層別状態別死傷者数（令和元年 立川市）

- ・ 幼児では歩行中の事故が、小学生から 19 歳までは自転車の事故が最も多い
- ・ 20 歳から 64 歳までは自動車の事故が最も多い
- ・ 高齢者（65 歳以上）では、自転車の事故が最も多く、次いで歩行中の事故が多い

令和元年の立川市における事故当事者の年齢層別状態別死傷者数の構成比をみると、小学生、中学生、中卒から 19 歳までは自転車事故がそれぞれ 44.2%、61.5%、60.4% となっています。

高齢者（65 歳以上）の事故は、自転車事故が 47.8%、歩行中の事故が 25.3% の順で多くなっています。



※その他には、その他車両（路面電車、列車、自転車以外の軽車両）、対象外当事者、対象外物件を含む。  
 ※中卒～19歳：中卒（中学校卒業後）から 19 歳まで。

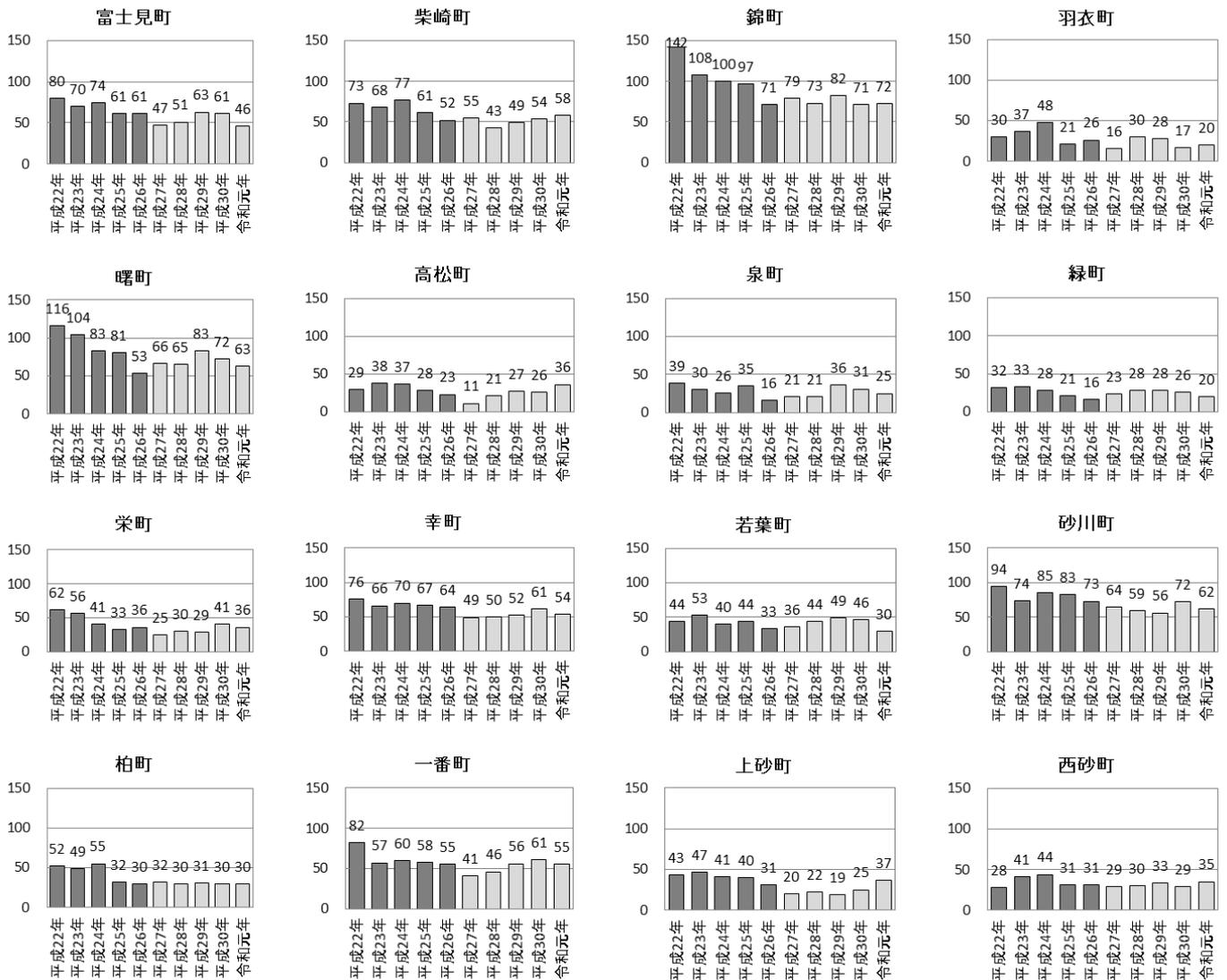
（立川警察署よりデータ提供）

図 4. 2 年齢層別状態別死傷者数の構成比（令和元年 立川市）

## 5 町別事故発生件数

- ・町別事故発生件数は、平成 26 年に比べて 8 つの町で増加
- ・錦町・曙町・砂川町は事故発生件数が多い

立川市内の町別事故発生件数をみると、令和元年は平成 26 年に比べ、8 つの町（柴崎町、錦町、曙町、高松町、泉町、緑町、上砂町及び西砂町）で事故が増加しています。また、錦町・曙町・砂川町は事故発生件数が多い地域となっております。



(立川警察署よりデータ提供)

図 5 町別事故発生件数 (立川市)

## 6 路線別事故発生件数・構成比

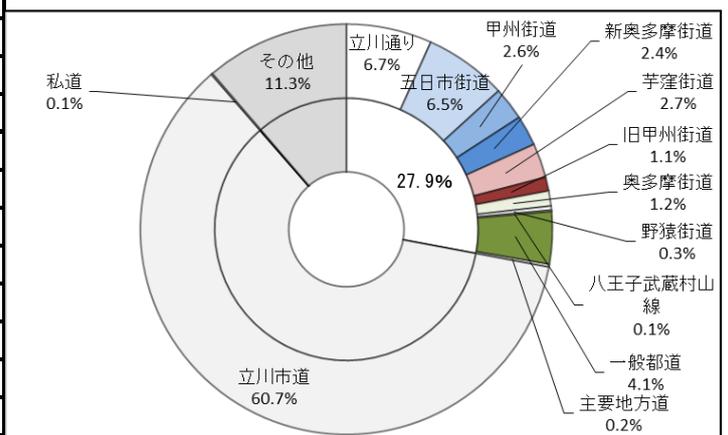
- ・路線別事故発生件数・構成比は、都道で258件、27.9%、市道で560件、60.7%
- ・個別の路線では立川通りが62件、6.7%で最も多い

令和元年の立川警察署管内\*1における路線別事故発生件数及び構成比をみると、主に幹線道路が多い都道で258件、27.9%、生活道路が多い市道で560件、60.7%となっています。

個別の路線では立川通りが62件、6.7%で最も多く、次に五日市街道で60件、6.5%となっています。



管理区分	路線名	発生件数(件)	構成比(%)
都道		258	27.9%
	立川通り	62	6.7%
	五日市街道	60	6.5%
	甲州街道	24	2.6%
	新奥多摩街道	22	2.4%
	芋窪街道	25	2.7%
	旧甲州街道	10	1.1%
	奥多摩街道	11	1.2%
	野猿街道	3	0.3%
	八王子武蔵村山線	1	0.1%
	一般都道	38	4.1%
	主要地方道	2	0.2%
市道		560	60.7%
私道		1	0.1%
その他		104	11.3%
<b>合計</b>		<b>923</b>	<b>100.0%</b>



(立川警察署よりデータ提供)

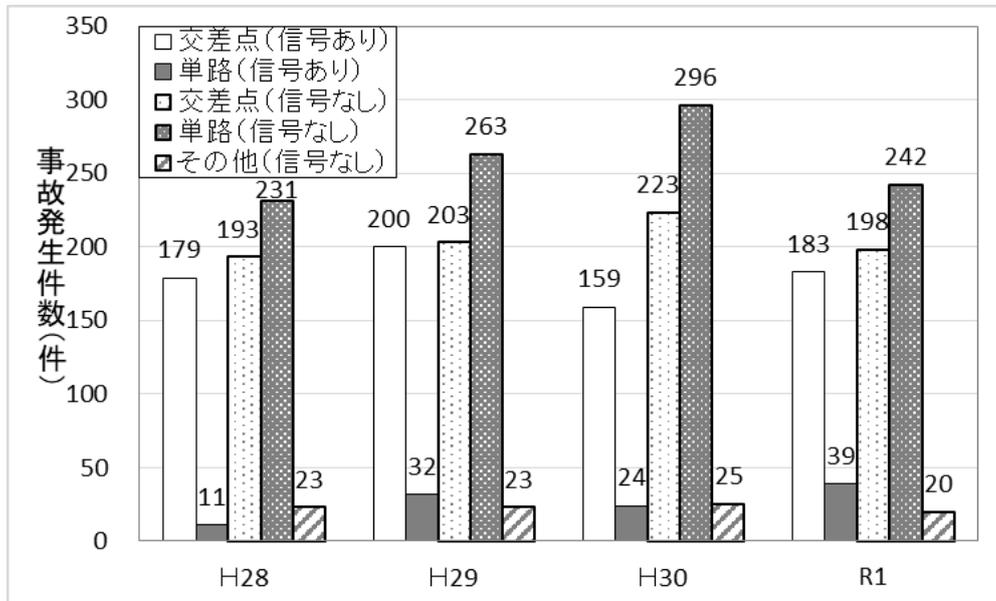
図 6 路線別事故発生件数及び構成比 (令和元年 立川警察署管内)

\*1 立川警察署管内：立川市（上砂町6～7丁目を除く）、国立市

## 7 道路形状別・信号有無別発生件数

・道路形状別・信号有無別発生件数は、信号のない単路での事故が最も多い

立川市内の道路形状別・信号有無別発生件数は、信号のない単路での事故が最も多く、次いで信号のない交差点、信号のある交差点での事故が多く発生しております。



(資料：警視庁 東京の交通事故)

図 7 道路形状別・信号有無別発生件数 (立川市)